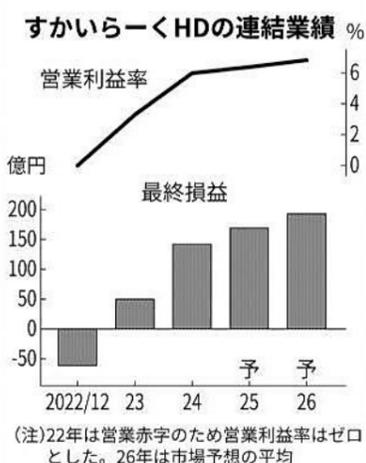


すかいらーくホールディングスが2027年12月期に純利益で約180億円を目指すとする中期経営計画を1年前倒しで達成できる可能性が出てきた。24年に傘下に収めた「資さんうどん」の統合効果が想定以上に出るほか、既存事業も堅調なためだ。新たに今後3～5年間の中計目標を検討しており、成長戦略を加速させる。

## 中計1年前倒し達成も



北氏

の効果が想定を上回る。24年10月に運営会社を買収した資さんうどんの寄与が大きい。資さんうどんの25年新規出店の約半数はファミリーレストラン「ガスト」などグループ内の既存業態からの転換で、コストを抑えながら出店を進めている。すかいらーくは国際会計基準(9月に7%)を大きく

準(IFRS)のため「資さん」のれん165億円の償却負担がない。資さんうどんは集客力

## 資さん買収効果「想定以上」

上回る。北CFOは「現中計発表時にはM&A効果が26年以降に出るとみている。想定より早くM&Aを実施でき、増益効果も早期に表れている」という。ファミリーレストラン「ガスト」など既存事業も堅調だ。25年1～9月の既存店売上高は前年同期比8%増えた。値上げの浸透で客単価が5%増とけん引しただけでなく客数も2%伸びた。「ガスト」では平日限定の割安なセットメニューなど、節約志向の高まりに対応した商品を打ち出した。店員が現場で感じた課題を迅速に経営陣に伝えるようにし、マニュアルを改善したり、商品を改良したりすることによって顧客満足度を高めて来店頻度を上げた。現中計目標の前倒し達成を踏まえ、北CFOは新たに今後3～5年間の中計目標を検討している」と明らかにした。2月中

句を予定する25年12月期決算発表のタイミングに合わせて公表する見込みだという。すかいらーくが掲げる4つの成長戦略のうちの1つである既存店売上高の成長率は年平均3～4%との現中計目標を据え置く見通し。国内新規出店、海外展開、M&A方針の3つの戦略については「改めて検討していく」という。北CFOはM&Aの対象について「買収後に100店舗以上展開できる企業を意識している。サプライチェーン(供給網)を強化するため食品工場などの買収も検討する」と語った。自身がかつて投資銀行に勤務していた際に顧客へM&A案件を提案した経験を生かし「企業価値の分析を自ら行っている」と強調した。すかいらーく株の17日終値は24年末比39%高の3405円と、2日に上場来高値(3764円)を付けてからは上値が重い。予想PER(株価収益率)は46倍台と外食企業の平均(30倍前後)を上回る。市場予想の平均(QUICKセンサー)の26年12月期の純利益は191億円で、成長期待が株価に織り込まれている面もある。さらなる上値を迫るには市場の期待値を超える成長が求められる。(中田千陽)